

令和7年度

大隅地域保健医療福祉協議会議開催結果

日 時：令和8年3月11日（水）15:00～16:40

場 所：大隅地域振興局 別館2階大会議室

出席者：大隅地域保健医療福祉協議会委員 19名（代理1名含む）
事務局 12名

【会次第】

- 1 開会
- 2 報告事項
 - (1) 地域医療構想について
 - (2) 健康かごしま 21 大隅地域推進協議会について
 - (3) 外国人技能実習生の結核対策について
 - (4) レジオネラ対策について
 - (5) 産業廃棄物不法投棄対策について
 - (6) 食品衛生対策について
 - (7) 平成 25 年生活保護基準改定に関する最高裁判決を踏まえた国における検討について
 - (8) 自殺対策の現状について
 - (9) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築について
- 3 協議事項
 - (1) 県保健医療計画の中間見直し及び進捗管理について
- 4 閉会

【結果】

1 報告事項について

各報告事項について、資料1から9のとおり報告し、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて」の報告時、以下質疑応答があった。その他報告事項では特段の意見は無かった。

<質問内容>

大隅地域の平均在院日数が県より短いのに、早期退院率が低いのはなぜか。原因等分かれば教示願いたい。

<回答>

原因についてはまだ確認できていない。平均在院日数については、身体疾患を抱えている精神障害の方も増えてきており、入退院を一般科と繰り返している方もみられ、そのようなところが影響している可能性はある。また、かなり病状の悪い状態で入院すると、改善が遅れ、高齢者で認知症により精神科に入院すると、中々退院には結びつかない。さらに、症状が改善しても再度地域や家庭で受け入れることについて理解を得られないということがあるため、地域の理解がしっかりある中で早めに地域へ帰ることができる仕組み・体制作りが重要だと考える。

2 協議事項について

来年度予定されている県保健医療計画の中間見直し及び進捗管理について、事務局から説明を行い、委員方から以下のとおり意見が挙げられた。

<意見>

- ・現在 70 歳を超える先生方にも当番医をお願いして承諾をもらっているが、今後益々高齢化が進んでいくことを考えると、さらに当番医の確保が難しくなってくる。
- ・4月から志布志、大崎に小児・内科クリニックができる。新規開業するための建築費が高騰しており、新規開業する医者も少なくなった。医療機関が減少していることに危機感を感じる。小児科が無ければ、若者はそこに住まない等の問題も出てくる。
- ・かかりつけ医については、曾於地区では医療機関数も少なく、各病院の医者がかかりつけ医までレベルを広げてもらうことも今後考えていかなければならない。
- ・肝属郡部のほうはもともと医療機関が少ないうえに医師の高齢化等により閉院がどんどん進んでいくという深刻な状況となっている。かかりつけ医の役割が非常に重要ということはわかっているが、高齢になってくると中々カバーできないという状況がある。
- ・地域連携やパス当考えてきたが、中々回っていないため、どうするかを改めて考えないといけないと思っている。医療計画の上に新たな地域医療構想が位置づけられることとなっている。新たな地域医療構想で加わることとなっている在宅医療や、福祉の連携も含んで計画をつくっていかないと、少子高齢化や医師の高齢化、従事者不足が進んでいる中では、中々進んでいかないうのが現状だと思われる。
- ・地域医療支援病院として、開業医の先生との連携をこれまではしてきたが、開業医の先生方の高齢化で閉院等も多く、連携や逆紹介が難しくなっている現状がある。
- ・医師の偏在だけでなく、診療科の偏在も課題。医療センターの職員のほとんどが鹿児島大学から来ているが、卒業しても都会に行く方が多く、新入職員が入ってこない。他圏域に受診しないと圏域内での診療が難しくなっている。
- ・医師の高齢化や、診療報酬についての課題については、自治体としても、どのような取り組み、申し出をしていくかということを検討していきたい。